

都市計画道路を変更します

変更案（原案）の閲覧は9月7日(水)～21日(水) 公聴会は9月29日(木)

市や県では、都市計画決定後、長期間にわたり未整備となっている都市計画道路の評価と検証を行い、路線を廃止または変更する都市計画道路変更案（原案）を作成しました。そこで、次の日程で都市計画道路変更案（原案）の事前閲覧と公聴会を行います。

■都市計画道路変更案（原案）

【県決定分】▷3・4・6号柳河停車場線＝廃止▷3・4・8号鬼童町枝光線＝名称の変更（旧南徳益枝光線）、起点・延長の変更（約4910m→約1880m）、幅員の変更（16m→18m）、車線数の明示（2車線）▷3・4・9号中島栄線＝名称の変更（旧西鉄中島駅前通り線）、起点・延長の変更（約1180m→約850m）、車線数の明示（2車線）▷3・5・11号散田枝光線＝廃止

【市決定分】▷3・4・6号南徳益上宮永町線＝3・4・8号旧南徳益枝光線変更、路線の分割に伴う新規市決定、延長約1790m、幅員16m、2車線▷3・5・13号柳河奥州線＝廃止▷3・5・14号西鉄中島北浦線＝廃止

■閲覧期間 9月7日（水）～21日（水）、午前8時30分～午後5時（土・日曜、祝日を除く）

■閲覧会場 市役所柳川庁舎まちづくり課

公聴会の開催と公述書の提出方法など

■日時 9月29日（木）午後7時～9時

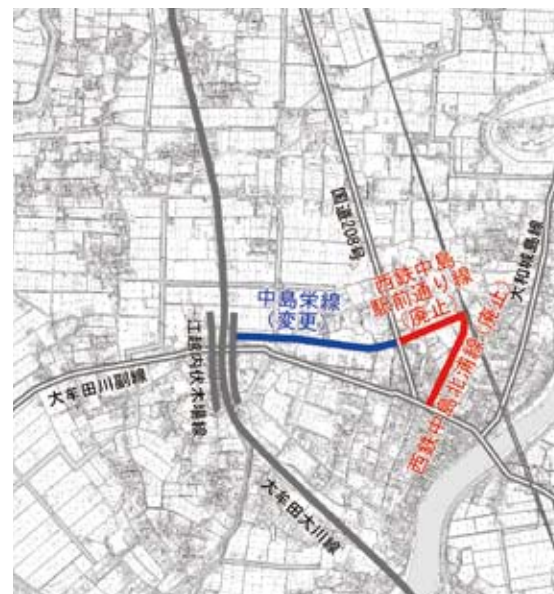
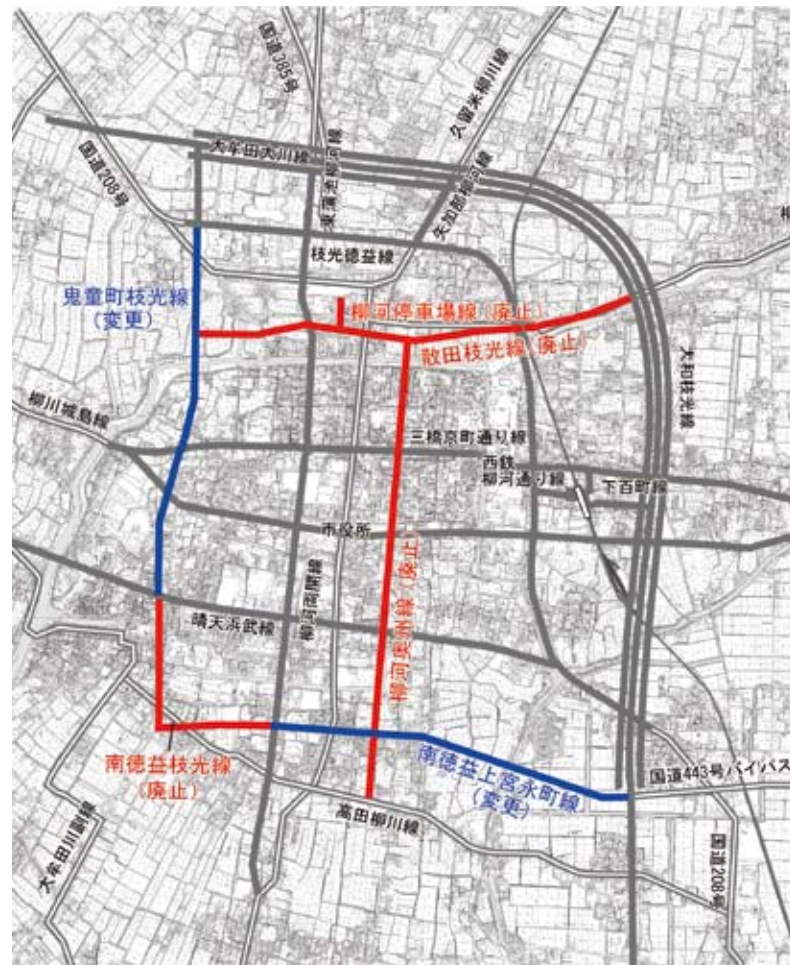
■会場 水の郷2階視聴覚室

■対象者 市内に住んでいる人、廃止路線の利害関係者※公聴会で意見を述べるには、申し込みが必要です。まちづくり課にある公述申出書に必要事項を記入し、9月21日までに、同課へ郵送するか持参してください。また公聴会の傍聴の受付は、当日の午後6時30分から始めます。希望者が多数の場合は抽選により決定するほか、公述申出者がいない場合は中止します。

公述申出書の提出と問い合わせは、同課まちづくり計画係（〒832・8601本町87番地1、☎77・8552）まで。

都市計画道路網図（変更案関係分）

左と下の地図は、今回の都市計画道路の変更を計画している路線を示したものです。路線の延長や幅員などの変更を予定している路線は青で、廃止を検討している路線を赤で、それぞれ示しています。詳しい地図は、閲覧会場でご覧いただけます。



中学2年生が一齐に240事業所で職場体験

柳川市中学生キャリアウイークを9月12日から16日まで実施

市内6つの中学校の2年生の生徒全員が、9月12日から16日までの5日間の日程で、市内外の240の事業所で職場体験「柳川市中学生キャリアウイーク」に取り組みます。この事業は、中学生に実際の職場で仕事を体験させることで、自分の持っている能力に気付かせ、将来の進路選びや目標づくりに役立たせようとするもの。同時に地域の事業所で学ぶことで、市の産業の魅力や良さに気付かせ、ふるさとを愛し地域に貢献できる人材を育てる狙いもあります。

学生の職場体験事業は、よその市町村でも取り組まれています。本市のように市内の中学校が一斉に行うのは県内でもまれです。本市がこのやり方を採用したのは昨年度から。それまでは、それぞれの中学校単位で職場体験事業を行っていました。それを一斉に行うことにしたのは、市内の全ての中学2年生647人が、時期を合わせて一斉に市内の事業所に飛び出すことで、多くの事業所が生徒を受け入れることになり、より多くの市民に事業に対する関心を持ってもらう効果を狙ったものです。

取り組みを進めるための組織として、昨年度、商工会議所や商工会、JA、学校、市教育委員会で中学生キャリアウイーク実行委員会を立ち上げ、地域と学校、行政の三者が一体となって、教育を進める体制づくりを行いました。この結果、生徒を受け入れる事業所も昨年の226か所から今年は240か所に増えており、地域の協力が定着していることがうかがわれます。

キャリアウイークの期間中、生徒たちは市内と近郊の公共施設や飲食店、スーパー、保育園、幼

稚園、病院、社会福祉施設など、さまざまな事業所で数人ずつのグループに分かれ体験活動を行います。昨年度、職場体験をした生徒の保護者からは、「あいさつをするようになった」「進んで手伝いをするようになった」という声も寄せられています。期間中、働く生徒たちを見かけたら、温かい励ましをお願いします。

問い合わせは、市教育委員会学校教育課教育指導室（☎77・8852）まで



【上】昨年、家電量販店で清掃を行う生徒たち
【左】生徒の受け入れを行う事業所を示すために配られた職業体験協力事業所ステッカー

社会人として自立に必要な能力や意欲の育成につなげたい

本来、子どもたちの勤労観や仕事観は、家庭でのお手伝いを通じて養われるべきです。残念ですが、近年、家庭内での子どもたちの仕事が減り、働く喜びを味わうことなく、社会人にならざるを得なくなっています。子どもは地域の宝といわれます。教育は学校と地域、行政が一体となって行うことが必要です。今回もたくさんの方の事業所で生徒を受け入れていただきます。このことは、地域ぐるみで子どもを育てる意識が、本市に根付いていることの表れであり、誇るべき財産です。生徒の皆さんには、この取り組みを通じて、きちんとあいさつをすることや、計画的に行動するなど、生活習慣の基本を身につけてほしいと考えています。

Message



北川 満 教育長